

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道139号富士改良 <small>ふじがいらりょう</small>	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中部地方整備局
起終点	自：静岡県富士市鮫島 <small>ふじ さめじま</small> 至：静岡県富士市青島 <small>ふじ あおしま</small>			延長	1.6 km
事業概要 富士改良は、富士市鮫島を起点とし、同市青島に至る延長約1.6kmの道路であり、次の点を主な目的として、権限代行にて事業を推進しています。 ①交通渋滞の緩和 ②交通事故の削減					
H5年度事業化	H4年度都市計画決定	H7年度用地着手	H18年度工事着手		
全体事業費	125億円	事業進捗率	35%	供用済延長	0.1 km
計画交通量	24,200台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.6 (残事業) 2.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 76/127億円 事業費：67/118億円 維持管理費：9.4/9.4億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 157/203億円 走行時間短縮便益：146/186億円 走行経費減少便益：4.5/9.0億円 交通事故減少便益：7.1/7.9億円	基準年 平成22年	
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=1.2(交通量+10%) B/C=1.7(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.9(事業費+10%) B/C=2.3(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=2.0(事業期間+20%) B/C=2.2(事業期間-20%)					
事業の効果等					
①円滑なモビリティの確保 <ul style="list-style-type: none"> ・現道等の年間渋滞損失時間の削減が見込まれる。 ・国道139号、(県)富士停車場線、(県)吉原田子浦港線、(県)田子浦港富士インター線等における旅行速度の改善が見込まれる ・(県)富士停車場線、(県)田子浦港富士インター線の旅行速度の改善により、バス路線の利便性の向上が見込まれる。 ・新幹線駅へのアクセス向上が見込まれる。【新富士駅への新たなアクセスルート】 ②物流効率化の支援 <ul style="list-style-type: none"> ・重要港湾へのアクセス向上が見込まれる。 【国道1号と田子の浦港(重要港湾)間の新たなアクセスルート形成】 【(県)田子浦港富士インター線の混雑度が緩和→田子の浦港と背後地(富士市、富士宮市)間のアクセス向上】 ・田子の浦港から南北方向への最短の指定区間(重さ指定、高さ指定道路)ネットワークを形成し、現状の迂回状況を解消し輸送の効率化、円滑化が見込まれる。 ③個性ある地域の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・富士山(富士山麓)などの主要な観光地へのアクセス向上が見込まれる。 ④災害への備え <ul style="list-style-type: none"> ・第一次緊急輸送道路に位置づけられている。 ⑤地球環境の保全 <ul style="list-style-type: none"> ・CO2排出量の削減が見込まれる。 ⑥生活環境の改善・保全 <ul style="list-style-type: none"> ・NO2排出量の削減が見込まれる。 ・SPM排出量の削減が見込まれる。 					
関係する地方公共団体等の意見					
静岡県の意見 本事業は、産業活動の活性化や安心・安全な生活環境の確保などを図るための重要な事業です。今後も、コスト縮減の徹底とともに、効果が早期に発現されるよう事業の推進をお願いします。また、					

各年度の実施に当たっては、引き続き県と十分な調整をお願いします。

事業評価監視委員会の意見

「事業継続」することは「妥当」である。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・富士市街部の南北路線で唯一の4車線道路である(都)田子浦伝法線では、朝夕のピーク時に交通が集中し、激しい渋滞が発生しています。
- ・富士市街部の南北路線である(都)田子浦伝法線、(県)田子浦港富士インター線、国道139号において交通事故が多発しています。

事業の進捗状況、残事業の内容等

- ・事業進捗率35% (平成22年度末見込み) 用地取得率71% (平成22年度末見込み)
- ・平成20年度 起点から臨港道路0.1km供用

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・(都)津田蓼原線から終点青島までの区間について、優先的に事業を推進し、早期供用を目指します。
- ・臨港道路から(都)津田蓼原線までの区間について、早期供用を目指します。

施設の構造や工法の変更等

- ・技術の進展に伴う新工法の採用等による新たなコスト縮減に努めながら事業を推進していきます。
- ・富士改良は、地形、土地利用状況、主要幹線道路との接続などを勘案した路線計画となっており、交通渋滞の緩和や交通事故の削減など、期待される効果が大きい合理的な計画であるため、計画の変更は困難である。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。